

コロナウイルスへの対応について

【ご意見・ご要望】

別添参照。

【回答】（回答日：2020年4月16日）

（教育推進・学生支援部 教務企画課）

ご質問と行き違いになってしまいましたが、新型コロナウイルス感染者が急増している状況の中、令和2年4月1日付「令和2年度 授業の実施の変更について」のとおり令和2年5月6日まで休講とすることとしました。

「令和2年度 授業の実施の変更について」は以下のホームページに掲載しています。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/events_news/office/kyoiku-suishin-gakusei-shien/kyomu-kikaku/news/2020/200401_1.html

【No. 1】（投稿日：2020年3月29日）

新型コロナウイルスへの対策として、科目によってはオンライン授業を行うとのことですが、一部の授業だけであれば、学校で行う授業を受けるために学校に行くので、結局、学内でオンライン授業を受けることになってしまう学生もいると推測されます。これでは、これだけ深刻になった事態への対応としては不十分であるように思います。すべての授業をオンラインにし、それができないような授業は中止、または延期にする等、思い切った判断をしないと、感染に気づきにくい若い人が多い大学が、爆発的な感染拡大のきっかけになってしまう恐れがあるのではないのでしょうか。

【No. 2】（投稿日：2020年3月30日）

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の検討等でお忙しい中失礼します。他の学生からも同様の質問がなされているであろうことを考えると、更にお手を煩わせてしまうことが恐縮ですがご質問します。

・一回生の全学共通科目について、語学や実験、ILAS セミナーは対面での授業で実施することですが、最も唾の飛び合うことが予想され、かつオンライン授業との相性が良いと思われる語学を、対面で実施する理由はこういったものがあるのでしょうか。また、実験やILAS セミナー・スポーツ実習などを延期することができない理由はこういったものがあるのでしょうか。

・また、他の全学共通科目がオンラインで実施されても、語学などが対面での授業で実施される以上、またすべての新生が空きコマに帰宅できるわけではなく、すべての新生がオンライン授業を自宅で視聴できる回線環境が整っているわけではなく、「身の安全のために語学を自主的に休講する」行動を取る新生は少ないと予想される以上、非常に多くの新生が空きコマに大学に残り、食堂や図書館などの甚だしい混雑が予想され、結果的に感染症対策としてどれほどの効果があるのか疑問に思えてしまいます。いち学生が思いつく程度の疑問は既に検討されていることと思いますので、どのような理由で「部分的な対面での授業の実施」という決定がなされたのかをお聞きしたいです。

・全国から数千人の新生が集まる京都大学で、4/2 から学部によってはガイダンスがスタートし、4/8 から語学等の授業が実施される場合、クラスターの発生の可能性が決して無視できる小さいものに留まらないものと思われそうですが、新学期開始を延期する検討や、すべての授業をオンラインで実施する検討はなされていないのでしょうか。

・一連の新型コロナウイルス感染拡大防止対策や授業の実施について、KULASIS や京都大

学 HP に掲載されている情報を、メールで学生に通知して下さることがほぼないように見受けられます。各々の学生が自発的に KULASIS や HP を確認すれば済むことではありませんが、すべての学生に知らせるためには、メールで通知しないとやはり不都合が生じるように思われます。あえて重要な連絡をメールで通知しない理由はどういったものがあるのでしょうか。

混乱する情勢の中で、学生の安全と教育や研究の機会保証の両方を保つ決定を迅速に下す難しさは重々承知しておりますが、ご回答を頂ければ幸いです。

【No. 3】（投稿日：2020 年 3 月 30 日）

新型コロナウイルス感染症の京都市や近畿地方における現状を考えると、このまま予定通り 8 日に対面を伴う授業や実習を開始することには京都大学がクラスター感染の舞台になってしまわないかという不安を覚えます。特にすべての新入生と多くの 2 回生が履修するであろう外国語科目をこのまま対面で開始することには疑問を禁じえません。この期に及んで出席がどうかなどと言っている場合ではないと思います。この件に関しての当局の見解をお伺いします。

【No. 4】（投稿日：2020 年 3 月 30 日）

新型肺炎に対する京都大学の方針に関してです。

関西では〇〇大学などまだ感染者が出ていない(報道されていない)国公立大学が授業の開始延期を決定しています。また、京都府では〇〇が悲しいことではありますが感染してしまっております。

・ 関西、特に京都府で新型コロナウイルスへの警戒を強めるべき中で授業を通常通りの日時に基本的に始める予定であるのに疑念があること

・ 最終的な決定を 4 月に発表するのは、実家に帰っている下宿生にも下宿に止まるべきか悩む下宿生にも定期を購入しなければならない自宅通学の学生にも不都合であること
こちら 2 点について、誠にお忙しい中恐縮ではありますがお早めにご検討いただき、学生教職員の方々の心身のご健康を第一とした判断を下していただければ幸いに思います。

よろしく願いいたします。

【No. 5】（投稿日：2020 年 3 月 31 日）

この度流行している新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の当面の防護措置として授業開始の延長、ないしは完全オンライン化を要望致します。

厚生労働省が 2020 年 3 月 19 日に掲載した新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・

提言によると、「密閉空間」「人が密集している」「近距離での会話や発声が行われる」という三つの条件を満たす環境を最も感染リスクの高い環境と位置付け、個人や事業者にここにおける行動を十分に抑制することを要請しています。

貴学は全学掲示板における告示第16号をはじめとする書面で集団感染に係るリスクを認識しながら、国際高等教育院のスケジュールの項目にて、学期当初より講義室における対面授業を行う科目として外国語の講義、ILAS セミナーを挙げています。これらは「小教室での講義」「それに伴う互いに近距離での受講」「語学や少人数セミナーには欠かせない発声、近隣の生徒とのコミュニケーション」と、上記の三つの条件を全て満たしており、すなわち集団感染の危険を顧みない方針であると言わざるを得ません。成績を決定する権限がそちらにある以上、我々学生としては必修で出席が必須である（と定められている）語学の授業を自主的に欠席することは明確な補償を示され納得しない限りは困難であると言えます。

また、京都大学は、京都市内の学生、遠方から来る下宿生、近郊より通学する学生が混在していることにも留意すべきです。3月下旬に首都圏をはじめとする人口密集地域において急激に感染者数が増加しています。特に最近知事より要請が発令されるに至った神戸-大阪圏を経由し通学する学生は少なくありません。通勤時の電車移動における感染リスクについては言うに及ばざるところであります。また自粛が認知され始めたとは言え未だ繁華街においては外国人観光客を含む多くの人が闊歩しており、京都大学への通学ルートとしてその繁華街にあたる四条河原町地域を徒歩で移動せざるを得ない学生が多いことを認識していただきたいと思います。また不完全な一部しか行われないオンライン授業では、結局授業があることを勘案し大学周辺や構内に留まる学生が多くなることは容易に想像がつき、さらに一部対面授業があるために地方の実家から京都に移動する必要がある場合はそれ自体がリスクをはらんでいると言えます。当該学生の持つであろう心的、身体的ストレスも考慮すべきです。

国内外での感染状況を鑑み、各自治体や法人の対応に倣い以上の措置をとることは貴学がなんら責任を負うものではないと考えます。この意見においてはごく当たり前の事実しか述べていませんが、今一度学生本位に立った再考を願います。